

平成29年度広島県薬剤師会薬事衛生指導員講習会及び
広島県学校薬剤師会研修会 参加報告

報告者：三浦謙二（鹿足支部）

講演内容

『ニセ医学・ニセ科学に騙されるわけとそれへの対処法』

～とくに学校に忍び込むニセ科学から健康食品・サプリを中心に～

開催日時：平成30年1月28日(日)

開催場所：県民文化センターふくやま

主 催：広島県薬剤師会、広島県学校薬剤師会

この報告は、特定の『商品』『個人』『団体』等を非難するものではありません。

子供たちを「悲しませないために」われわれ薬剤師は何ができるか。

「科学（化学）を伝える大切さ」を考えましょう。

<その1：なぜ人はだまされるのか？>

①人は騙されるようにできていること。

認知バイアス：人には、事実でないことを事実にとめる「自分で自分を騙す」システムがある。これは、もともとは進化の過程のなかで身につけていった脳の仕組みのひとつです。

②特に知っておきたい「確証バイアス」

自分に都合により事実だけしか見ない。最初に自分が信じた考えを補強する情報を集め、自分の考えは「間違っていない」と思い込んでしまう。

☆学校の先生、環境ボランティアなど、公共意識の高い人は特に注意が必要。

<その2：いいと信じた健康食品で健康被害>

①ウコン

・健康食品・サプリ・民間薬でもっとも多く報告されているのが、肝機能障害。

原因物質は「やせ薬（ダイエット関連）」が多いが単一成分では、意外にも「肝臓にいいはずのウコン」だった。

②ベータカロテン

・抗酸化作用があり、癌の予防に効果があると考えられていた。

ところが、大規模な二重盲検試験をした結果、ベータカロテンを接種したほうが、肺ガン、各種死亡率が優位に上昇するという報告があいついだため最近ではサプリとして販売されるものはほとんどなくなった。

☆これらは、過剰摂取が原因と思われる。サプリ大国アメリカでは、健康食品の安全性を検証する方法が確立されるが、日本では野放しである

<その3；学校に忍び込む偽化学>

- ① 「水伝（言葉の『波動』）」：水に向けて「ありがとう」と書いた紙を貼りつけて凍らせるときれいな結晶ができ、「ばかやろう」と書いた紙を張り付けると氷の崩れた氷の結晶ができるという氷の結晶写真集が発売されたベストセラーになった。学校の教育でこの本を写真集「人間の体の6、7割は水でできているから人も良い言葉・悪い言葉の『波動』の影響を受けるから、悪い言葉を使うのはやめましょう。」というが取り入れられ流行した時期があった。

ところが、波動カウンセリングと称して「波動測定器」で体の悪い部分を見つけ高額な「波動水（波動共鳴水）」を飲むことで改善するという『波動商売』があらわれ被害にあう人が続出した。

☆間違った科学を道徳の時間に取り入れたために騙されやすくなる人が増える？

- ② 『有用微生物群』の団子の水環境に投げ込む「環境活動」

「有用微生物群」は、そういう菌がいるわけではなく、特定の会社がつけている「商品」である。もともと農業土壌開発を目的につくられたらしいが、

各種実験をおこい（1）水質改善に効果がある。（2）飲むことで病気になる（3）1200度で過熱しても死なない混ぜることで工業製品の高度が増す。（4）抗酸化作用、非イオン化作用・三次元（3D）の波動の作用をもつと力説し、実験結果で良いことは「有用微生物群菌」のおかげ、悪い時は「極めかたが足りないのもっと使いなさい」というかたちで、広告・講演を開催し高額な「清涼飲料水 500ml 4500円）」を販売。批判的な意見を述べる人には、営業妨害で裁判に訴えるという手法をとった。また、学校で有用微生物群をつかいプールをきれいにする、湖に有用微生物群を投げ入れてきれいにする活動をしてもらい、環境美化のHPをつくり写真活動報告を掲載している。

☆現在、プールに「有用微生物群」などの微生物を投与することは、衛生基準で禁止されているが、現在でも松江の小学校の教育で実際に行われている様子、宍道湖に環境美化として「有用微生物群」をつかおうというブログが削除されずに残っている。

【 最後に 】

子供たちを悲しませないための我々、薬剤師はなにをすべきか？

きちんと科学的な検証が行われたデータに基づいて「まち・学校の科学者として適切なアドバイス」を！

